かごしま林業普及だより

第１９号
（令和７年11月）

目　次

1. 再造林の推進に向けて　・・・【鹿児島指導区】　１頁
2. 枝物生産魅力アップ研修会を開催　・・・【南薩指導区】　１頁
3. 南薩地区山林種苗振興会視察研修の実施　・・・【南薩指導区】　２頁
4. 南薩流域林業労働安全研修会（きこり達人競技会予選）・・【南薩指導区】　２頁
5. 全国農業担い手サミットにおける早堀りたけのこのPR　・・【北薩指導区】　３頁
6. 林業のお仕事ガイダンスin伊佐農林高校　・・・【姶良・伊佐指導区】　３頁
7. 曽於市月野小学校で森林環境学習を実施　・・・【大隅指導区】　４頁
8. 緑の少年団　大阪・関西万博で「県産材活用」を学ぶ・・・【大隅指導区】　4頁
9. 林業大学校バスツアーを開催　・・・【大隅指導区】　５頁
10. 種子島木材リレーフェアを開催　・・・【熊毛指導区】　５頁
11. 沖縄県の木材加工に関する調査を実施　・・・【大島指導区】　６頁
12. 市町村森林管理技術者等実践研修を実施　・・・【普及指導・育成部】　６頁

ホームページで試験研究や
林業普及活動、森林環境教育
などの取組を紹介しています！

鹿児島県森林技術総合センター
普及指導・育成部

再造林の推進に向けて

鹿児島指導区

鹿児島地域においても，森林資源の充実と木材需要の高まりにより，人工林の主伐面積は今後も増加が予想されることから，森林資源の循環利用や森林の有する公益的機能を持続的に発揮させるため，再造林に向けた推進体制の強化を図ることが必要となっています。

このため，当指導区では，伐採業者に対する再造林推進に向けた取組の１つとして，伐採届出において0.5ha以上の伐採地で再造林の計画がない箇所について，土砂流出の防止を考慮した適正な伐採と伐採後の再造林が行われるよう，各市と共同で個別指導を実施しています。

再造林を行わない理由として「森林所有者の意向や作業員が少なく直営で行えない。」などの意見があり，林業事業体のマッチングに取り組んでいますが，さらなる強化を図るため，来年度の地域振興推進事業で伐採業者と再造林者の連携の仕組みができないか検討しているところです。

また，森林所有者に対して，所有している森林の重要性や価値についての理解を深め，再造林につなげるために，昨年度，再造林推進パンフレットを作成し，関係機関や林業事業体を通じて森林所有者に広く配布しています。個別指導の際も当パンフレットを活用し，森林所有者に再造林を促すように伐採業者に指導しています。　（濵田肇次）

伐採現場での個別指導

再造林推進パンフレットの配布

枝物生産魅力アップ研修会を開催

南薩指導区

南薩地域は県内でも有数の枝物生産地であることから，令和５年度より地域振興推進事業を活用し新規枝物生産者の育成を目的として，地域生産者の協力を得ながら毎年度研修を実施しています。

８月20日に開催した研修会は，専門的で長期間にわたる県全体の枝物生産者養成講座よりも簡易な入門コースとして，枝物生産の魅力を伝えることに重点をおいた内容としたこともあり，管内各市の広報誌への掲載や回覧板での周知を通じて１０名の参加がありました。

午前の室内研修では，枝物生産の概要説明のほか，退職後に枝物生産を開始した南薩枝物生産組合員による枝物生産の講話等を行い，午後からはバスで移動し，同組合の組合員の圃場などを視察しました。

参加者は，既に枝物生産を行っている方や遊休農地を活用して生産を検討されている方，社会福祉法人で枝物生産に取り組まれている方などがあり，講師の方々と活発に質疑がなされました。（山下幸一）

南薩地区山林種苗振興会視察研修を実施

南薩指導区

９月９日に南薩地区山林種苗振興会の視察研修を行いました。

例年，県山林種苗協同組合の総会後，現地研修を行っていますが，振興会より「どこか良い視察場所はないか」との相談があったことから，エリートツリーや抵抗性マツを植栽している県の空港採種穂園での視察研修を提案したところ，５名の会員と森林組合職員２名の参加がありました。

現地ではまず，資料によりエリートツリーや特定母樹に係る説明を行った後，採種穂園の中に入り，母樹の育成状況等について意見交換をしました。

その後，抵抗性マツの母樹の状況を確認した際に，一人の生産者から，「昔は，傘が開く前の松ぼっくりを採って，乾燥させて種を取りマツの苗を生産していた」との話などを聞くこともできました。

研修後，参加した会員の方々からは，「エリートツリーの母樹の苗木はどこで手に入るのか？」との質問があり，当方から認定特定増殖事業者の認定を受ければ九州育種場から苗の供給が受けられることなどを説明し，希望者に対し，認定に向けた勉強会を行うこととなりました。

南薩管内では，今年度，新たに２名の方が生産事業者登録を行い，コンテナ苗生産施設整備を実施しており，コンテナ苗の生産量も増加する見込みとなっています。

生産者の方々が順調にコンテナ苗生産が行えるよう，地区での研修会や資料提供，生産指導等を進めていきたいと思います。（長谷川徳幸）

南薩流域林業労働安全研修会（きこり達人競技会予選）の開催

南薩指導区

南薩流域では，「鹿児島県きこり達人競技会」に先立ち，安全衛生の促進及び技術・技能の向上を目的として，10月30日に「南薩流域林業労働安全研修会（きこり達人競技会予選会）」を開催しました。

今回の研修会には，かごしま森林組合の３支所から３組６名が参加し，「県きこり達人競技会」と同様の種目で競技を行いました。種目はチェーンソーの整備・点検，ソーチェーンの脱着，丸太合わせ輪切り，伐木・造材作業の４種目です。

また，研修会では，林業における労働災害が他産業と比べて依然として高い状況にあること，特に災害の約７割が伐倒作業中に発生していること等を改めて周知し，伐採作業に従事する際は細心の注意を払うよう参加者に強く呼びかけました。

競技では，道具の手入れや準備状況から入念に準備されていることがうかがえましたが，競技が始まると，審査員や関係者が注目するという普段の作業とは異なる状況から，緊張した様子が見られました。

３名の審査員が厳正に審査した結果，３組とも僅差で優劣をつけがたい状況でしたが，最優秀は，かごしま森林組合いぶすき支所，続いて鹿児島支所，同南薩支所の順となりました。

また，講評では森林技術総合センターの主任林業専門普及指導員より，伐倒前の周辺整理や指差し呼称の徹底などをアドバイスして頂きました。

「県きこり達人競技会」に参加される代表の方々には，大会までにさらに技術を磨き，上位入賞を目指してほしいと期待しています。

（山下幸一）

「全国農業担い手サミット」における早掘りたけのこのＰＲ

北薩指導区

10月23日～24日に，本県において「全国農業担い手サミット」が開催されました。

表題のとおり「農業」のイベントで，県内６地域36のコースで野菜，果樹，畜産などの生産施設等の視察や，意見交換会が実施されました。

県内一の竹林面積を有するさつま町では，「早掘りたけのこ（竹林）」が視察先の一つとして設定されました。

視察の受入れにあたり，事前準備として，当日参加者が行う掘取り体験用のたけのこを見つけ易くするため，県・町の担当者が一丸となって，竹林の地表面に堆積した笹等の除去するなどの竹林整備を生産者と協力して行いました。

視察が早掘りたけのこの出始めの時期であるため，発筍（たけのこの発生）が心配されましたが，当日は約20本の発筍があり，生産者の実演のもと，無事に掘取り体験を実施することが出来ました。

また，視察後の昼食では，たけのこの刺身が供され，参加者からは，「貴重な体験が出来た」，「日頃食べるものとは食感が全く違った」などの声が聞かれ，全国一早い「早掘りたけのこ」の認知度の向上に繋がったものと考えています。

（安樂真一）

事前準備（笹等の除去）

参加者による掘取り体験

林業のお仕事ガイダンス in 伊佐農林高校

姶良･伊佐指導区

林業の仕事に興味を持ってもらい，地元にどのような林業の就職先があるかを知ってもらうため，地元の林業事業体の協力のもと，10月10日（金）に県立伊佐農林高校 農林技術科 林業コース２年生（７名）を対象に『林業のお仕事ガイダンス』を開催しました。

最初に，林業の仕事について振興局から説明後，フェラバンチャでの伐倒やハーベスタによる伐倒・枝払い・造材の作業状況を動画で見てもらい，イメージをつかんでもらいました。

その後，伊佐市内の森林組合や林業事業体（計４者）から約10分間ずつ主な勤務地や勤務時間，休日や残業の有無，求める人材などをそれぞれアピールしていただきました。

質問タイムでは，苗木や木炭，チップの生産，資格取得など各事業体が日頃取り組んでいる業務内容や待遇等について，生徒から多くの質問が出され，各事業体の回答を聞いて，より深く理解を深めたようです。

ガイダンス終了後に実施した生徒へのアンケート結果では，「林業はきつい，大変と思っていたが，機械化が進んでいて印象が変わった」という意見が多かったです。また，林業以外の職種に就きたいと考えている生徒もいますが，数名が「林業の仕事に就きたいと思った」「説明を聞いた事業体で働いてみたい」という意見もありましたので，今後もよりよいガイダンスとなるよう事業体や市，学校と連携を取りながら実施していきたいと思います。（神志那紀子）

各林業事業体の概要説明

質問タイム

曽於市立月野小学校で森林環境教育を実施

大隅指導区

９月16日（月），月野小学校の全校生徒を対象に，森林・林業に関する座学と体験学習を実施しました。

当初，全校生徒を体育館に集めて実施する予定でしたが，体育館にエアコンがなく，熱中症になる可能性があるため学校側からエアコンのある部屋で実施したいとの要望を考慮の上，１～４年生34名は，県と鹿児島県林材協会連合会が合同で制作した紙芝居（おおきくなあれ，みんなのもり）による座学とスギ板のコースターづくりの体験学習，５～６年生12名は，これまでも授業で「林業」について学習していると聞いていたので，「山の仕事『林業』」のリーフレットによる座学とスギ板のファイル立てづくりの体験学習に分けて実施しました。

５～６年生の林業についての学習では，森林は循環可能な資源であること，森林の循環利用を進める上で再造林は大変重要であること説明した後，木製ファイル立てづくりを行いました。

木製ファイル立てづくりを始める前に，木表・木裏について説明をしましたが，子どもたちだけでなく，先生方も木表・木裏について初耳だったとの声が聞かれ，改めて森林・林業に関する普及活動の大切さを認識しました。

最初は釘がなかなか真っすぐ打てない子どもが数名いましたが，徐々に慣れてきて，多くの子どもたちが予定の時間より早く仕上げられ，残りの時間でスギ板のコースターづくりを行いました。

今後も様々な機会を通じて，森林を全ての県民で守り育てる意識の醸成に努めたいと思います。（岩智洋・鶴田正輝）

「林業」についての学習

完成作品と一緒に

大隅管内　緑の少年団　大阪・関西万博で「県産材活用」を学ぶ

大隅指導区

大隅地域管内の緑の少年団４団（恒吉小（曽於市），潤ケ野（志布志市），持留小（大崎町），横尾岳（鹿屋市））では，７月下旬，大阪の夢洲（ゆめしま）で開催された“大阪・関西万博博覧会ＥＸＰＯ２０２５”において，「未来の木材利用のあり方」を学ぶ少年団交流学習会を実施しました。行程は，日本一の木材輸出港である志布志港を発着するフェリーを利用する船中２泊３日の弾丸ツアーです。

木材利用の講師として，今回の万博へ木材を納入した地元の山佐木材株式会社から有馬社長，榎原専務に同行して頂き，往路の船内で，鹿児島県の森林・林業の特徴，集成材やＣＬＴ，森林認証制度等の事前学習を林業普及指導員と併せて行い，翌日の会場に臨みました。

今回の万博会場では，最大の木造建築物としてギネス認定となった大屋根リングをはじめ，多くのパビリオン等に木材が利用されており，大隅を含む鹿児島県産の木材がポーランド館やＣＬＴ屋根のトイレ休憩所，大屋根リングの一部に利用されています。

国際イベントの万博にて，地元産の木材が利用されている状況を直に見て，参加した少年団員も同行した育成会の方々も，規模の大きさとデザイン性の高さに感銘を受ける一日となりました。

今後の木造建築，木材利用の可能性への知見を深めてもらうことや，自分達の将来の夢，大隅地域の森林をさらに大切に守り育てる意識の醸成などなど，これからの少年団活動等に繋げてもらいたいと思っております。（神志那仁・岩智洋）

大屋根リングは大迫力！

故郷がおなじ木材の前で

林業大学校バスツアーを開催

大隅指導区

10月17日(金)に，鹿屋農業高校農林環境科２年生17名を対象に鹿児島大学高隈演習林において，かごしま林業大学校の研修状況を視察するバスツアーを開催しました。

午前９時前に鹿屋農業高校を出発し，高隈演習林に向かうバスの中で，生徒達に対してオリエンテーションや林業に関する基礎知識等の講話を行いました。

高隈演習林に到着後は，鹿児島大学の担当者から高隈演習林の概要等を説明いただき，伐倒及び玉伐りを研修中のかごしま林業大学校研修生の状況を見学しました。

その後，大隅地域出身の林業大学校研修生２名と対話する時間を設け，質疑等を行いました。

対話を行った林業大学校研修生２名は鹿屋農業高校の昨年度の卒業生であり，顔見知りの先輩に生徒達は積極的に質問をぶつけていました。

質問では「林業大学校で苦労すること」，「鹿屋農業高校で学んだことは活きているか」，「生活費はどれくらいかかるか」，「バイトはできるか」，「今後の進路はどう考えているか」など様々なものがあり，回答に苦慮する場面もありましたが，終始，楽しそうに受け答えをしている姿が印象的でした。

今回，バスツアーとしては初めての開催であったこともあり，試行的な実施となりましたが，生徒達にとっては今後の進路を決めるうえで貴重な経験となる機会と思っておりますので，反省点などを踏まえ，今後も継続して実施していきたいと考えております。（鶴田正輝）

演習林内での作業見学

林業大学校研修生との対話

種子島木材リレーフェアを開催

熊毛導区

10月下旬から11月上旬にかけて種子島の各市町で開催される産業祭等において，種子島産木材の利活用の促進と森林・林業の役割等についての普及啓発を目的に，種子島木材リレーフェアを実施しました。

フェアでは，種子島の森林や林業，木造建築に関するパネル等の展示のほか，木の良さを体感し，木材利用への理解を深めるための木工教室を行いました。

種子島の木材を使用した本立て作りは，子供や大人にも大人気で，準備していた資材は終了時間を待たずにあっという間に無くなってしまうほど大盛況でした。今年は種子島中央高校の生徒に資材の準備から手伝ってもらい，一緒になって子供達に木の良さを伝えてくれました。

体験後に実施したアンケートでは，「森林に行きたくなった。木で何かを作りたくなった。」，「森林で木を植えたり，伐ったりしてみたい。」，「種子島の木で作った本立てを大切にしたい。」などの感想が寄せられ，子供達が森林や木材を身近に感じ，強く興味を持ってくれたようでした。

また，保護者からは「子供たちにすごく良い体験だった。」，「子供も楽しみながら木に触れることができ，森林に興味を持つ機会となった。」との感想もあり，今回のフェアが子供達と木に触れ，木に親しみを感じながら，ものづくりの楽しさや達成感を家族で共有するいい機会となったと感じました。

本立てをうれしそうに抱える子供達が，郷土の森林や林業に少しでも興味を持ってくれるように，これからも取り組んでいきたいと思います。（富元雅史）

木工教室

沖縄県の木材加工に関する調査を実施

大島指導区

現在，奄美産木材の主な用途は木質バイオマス燃料用原木や鰹節製造用薪等となっており，建築用材や木工品への利用はごく僅かとなっています。

そこで，奄美産木材の木工品への利用を促進するため，10月30日～11月１日にかけて沖縄県の木材加工に関する調査を行いました。

まず，沖縄県庁（森林管理課）を訪問し，木材加工等に関する現状調査と意見交換を行いました。その中で，同県では軽くて加工しやすいウラジロエノキを学童机等に使用しており，奄美にも通直・完満なウラジロエノキがあるのではないかとのことでした。今後，木材利用を進める上で有用樹種の所在を把握することの重要性を改めて認識するとともに，関係者と資源調査の手法等について検討していきたいと思います。

その後，おきなわ工芸の杜（豊見城市）で開催している「第28回沖縄ウッディフェア」に出展していた木工業者や原料となる板を販売する企業に現在の課題等について聞き取り調査を行ったところ，いずれも原材料の確保に苦慮している等の声が聞かれ，奄美産木材活用の可能性があることがわかりました。また，木工業者から年度内に奄美産木材に関する視察を行いたいという話もあったことから，原材料供給につなげられるよう対応していく予定です。

沖縄県では様々な樹種を活用した木材加工が盛んに行われており，今回の調査をとおして，奄美産木材の利用を促進するヒントを得ることができました。今後は当地域の資源調査や沖縄県と連携した奄美産木材の利用を進めていきたいと考えています。（穂山浩平）

沖縄ウッディフェア

沖縄県産材の販売状況

市町村森林管理技術者等実践研修を実施

普及指導・育成部

森林技術総合センターでは，市町村林務担当者を対象に，森林経営管理制度に係る森林評価や森林整備等に必要な知識や技術向上を図るため，現場における森林の調査方法や間伐等を実施する際の設計・積算等の技術研修及び森林環境譲与税の有効活用に向けた研修等を毎年実施しています。

本年度は９月３日に市町村森林環境譲与税活用研修をカクイックス交流センター（鹿児島市）で開催しました。

研修では，薩摩川内市における森林環境譲与税の活用状況の講演及び県内外における活用事例の情報提供を行った後，３班に分かれグループ毎に，森林環境譲与税を活用した事業の企画・立案を検討し，検討結果を発表するグループ演習を実施しました。

今回の市町村担当者の参加は，経験年数1～2年が6名，3～5年が7名，6年以上が3名と，比較的，経験豊富な方の参加も多かったことなどから，各班ごとに活発な意見交換や討議が行われ，「現場の人材不足」を課題とした班では，作業の省力化を図る機械化の支援や，資格取得の支援などの事業企画を提案するなど，実践的な研修となりました。

研修修了後の参加者アンケートでは，「各市町村の担当者の意見を直接が聞けて良かった。」「事業検討の発想のきっかけになった。」などの感想が聞かれました。

今後も森林の調査方法の技術研修等の実施や各地域振興局が開催する地区研修等により，引き続き市町村職員の技術向上を支援してまいります。（下田誠司）

グループ演習の状況